

青梅市文化財ニュース

第 1 2 5 号

平成10年 3月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

キツツキのドラミング

春になって、御岳山や丘陵地帯の林を歩いていると、タラララララ…という乾いた連続音が聞こえてくることがあります。近くで聞くと意外に大きな音で驚かされます。この音は、キツツキの仲間が木を叩いて出す音で「ドラミング」といいます。

春になると、多くの野鳥の雄たちは、繁殖のために雌を呼んだり、自分の縄張りを宣言するために、独特の声で囀りという鳴き声を持ちません。その代わり、木を叩いて音を出し、自分の存在をアピールします。囀りの代わりに音を出す鳥はキツツキでだけではありません。例えば、キジやヤマドリは翼を半開きにして細かく震わせ、低いドドドドド…という音を出します。その音からこれを「幌打ち」ということがあります。オオジシギというシギの仲間は、飛びながら尾羽を垂直に立て、急降下します。すると硬い軸をもった尾羽が風を切り、ガガガガガ…というとんでもない大きな音を出します。この音から、オオジシギのことをカミナリシギともいいます。

青梅周辺の林には、アオゲラ、アカゲラ、オオアカゲラ、コゲラという4種類のキツツキの仲間が生息しています。コゲラはスズメ大、アオゲラはハト大の大きさですが、それぞれ体の大きさに応じて、ドラミングの音の回数、長さ、間隔が異なります。アカゲラの場合だと、1秒間に20回以上木を叩くそうです。実際、キツツキの仲間がドラミングするのを見てみると、目にも止まらぬ早さで首を動かしているのが分かります。強い首の筋肉、丈夫な嘴、衝撃を吸収する構造をもった頭の骨がこの行動を可能にしています。足の指も他の鳥とは異なり、4本指の1本は外向きに開き、木の幹をしっかりとつかめるようになっています。体を垂直に支える尾羽は、針金のように硬く丈夫にできています。

きれいな音を出すために、キツツキは叩く木を選びます。枯れて中が空洞になった木には、ドラミングの跡がたくさん残っていることがあります。木だけではなく、鳥の巣箱、碍子、電柱などキツツキの周りがあるよい音のでそうなものは、ことごとくといってよく叩いているようです。キツツキにとって、音を出すことはそれだけ大事なことです。

山の中に建てられたお寺や神社の羽目板にも、キツツキの開けた穴がたくさん残っていることがあります。お寺をつつくので、テラツツキ、それがなまってケラツツキになり、「ケラ」と

いう名前が生じたという説があります。虫ケラを食べるから「ケラ」なのだともいいます。キツツキの仲間は木の中に潜む虫を食べ、春に木を叩いて音を出すことが大事な繁殖活動をはじめの合図になります。そしてその巣も、太い、主に枯れた木の幹をくり貫いて作ります。巣はアカゲラの場合、フットボール大の空間が必要になります。だからキツツキの生活には、大木のある森林が必要です。春、キツツキのドラミングが聞こえてくる場合には、立派な森や林が残されていると考えてよさそうです。

(文責 桜岡)